

第5回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会を終えて

鹿児島大学病院 薬剤部

武田 泰生

会期：2021年7月3日（土） 10:00~18:00

会場：城山ホテル鹿児島（鹿児島市）/Zoomによる同時 Web 配信

会長：武田 泰生（鹿児島大学病院 薬剤部）

テーマ：新しい時代へ挑戦する臨床薬理のこれから

1. 開催概要

第5回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、テーマを「新しい時代へ挑戦する臨床薬理のこれから」とし、2021年7月3日（土）に城山ホテル鹿児島およびZoomによるWeb配信において開催しました（Photo. 1）。

日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、前回の宮崎大学が主催した「第4回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会」（2019年7月）に続き、今回で5回目の開催でした。新型コロナウイルスの蔓延により、2020年は地方会中止を余儀なくされ、今年の開催もコロナ禍の影響を受け、現地での開催が困難ではないかとぎりぎりまで悩みましたが、本来の学会の形である会員の皆様との「Face to Faceの交流」も必要であると考え、世話人の先生方やホテル側とも十分相談し、感染症対策を万全に準備した中、城山ホテル鹿児島

での開催でした。また、Zoom配信によるハイブリッド開催についても、本地方会にとって初めての試みでした。

今回の地方会では、大学教員や臨床研究や治験に携わる医療関係者やCRCなど170名（現地参加60名、Web参加110名）の方々にご参加いただきました。

一年越しの開催となりましたが、皆様にはこのような状況のなか本地方会にご参加いただきましたことを心から感謝申し上げます。

プログラムとしては、特別講演、シンポジウム、一般演題（6演題）、ランチョンセミナーなどを企画し、活発な討議を展開し、10時から18時までの中身の濃い会でした。

プログラム構成にあたっては、シンポジウムのテーマを、「基礎から臨床への架け橋」とし、基礎研究から臨床までを網羅した内容としました（Table）。

2. 特別講演

特別講演としては、岡野栄之（慶應義塾大学医学部 生理学教室）先生に鹿児島までお越しいただき、「iPS細胞技術を用いた精神・神経疾患の研究」としてご講演いただきました（Photo. 2）。

岡野先生のグループは、iPS細胞技術を使用した中枢神経系の再生と疾患研究を行っておられ、精神・神経疾患への活用をめざした病態研究や創薬研究の中心的存在です。本講演においても、精神・神経疾患患者のiPS細胞の樹立ならびに脳オルガノイド技術を用いた精神・神経疾患研究の意義について、最近の精神・神経疾患への応用として臨床試験などのデータを用いてわかりやすく解説いただきました。九州・沖縄地方会参加者にとっても大変貴重で有意義な時間となりました。



Photo. 1 第5回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会
会長挨拶

著者連絡先：武田泰生 鹿児島大学病院薬剤部 〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1

E-mail: takeda@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

投稿受付 2021年8月13日、掲載決定 2021年8月20日

ISSN 0388-1601 Copyright: ©2021 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table プログラム

<p>〈開会挨拶〉</p> <p>会長 武田 泰生 (鹿児島大学病院 薬剤部)</p>	<p>〈ランチョンセミナー 2〉</p> <p>座長 寺菌 英之 (鹿児島大学病院 薬剤部)</p> <p>「避けて通れぬ糖尿病合併症～糖尿病性神経障害の病態・病期と治療戦略」</p> <p>演者 出口 尚寿 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学)</p>
<p>〈一般演題〉</p> <p>座長 西 昭徳 (久留米大学医学部 薬理学講座)</p> <p>池田 龍二 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部)</p> <p>①「血管平滑筋 NCX1 阻害処置は低酸素誘発肺高血圧を改善する」</p> <p>田頭 秀章 (福岡大学医学部 薬理学)</p> <p>②「非小細胞肺癌患者の肝予備能に着目した免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測」</p> <p>松金 良祐 (九州大学病院 薬剤部)</p> <p>③「TDMを旨とした分子標的薬アファチニブの副作用回避濃度の解析」</p> <p>寺菌 英之 (鹿児島大学病院 薬剤部)</p> <p>④「医療コミュニケーションを重視した問題解決型臨床実習：臨床薬理学教育 (クリニカル・クラークシップ) における新たな取り組み」</p> <p>関口 愛 (大分大学医学部 臨床薬理学講座, 大分大学医学部附属病院 臨床薬理センター)</p> <p>⑤「クラウドシステム導入による治験事務局業務の変化」</p> <p>益田 将吾 (鹿児島大学病院 臨床研究管理センター 治験管理部門, 鹿児島大学病院 薬剤部)</p> <p>⑥「治験薬調剤における治験実施計画書からの逸脱防止に向けた取り組み」</p> <p>高木 雅恵 (九州大学病院 ARO 次世代医療センター, 九州大学病院 薬剤部)</p>	<p>〈シンポジウム〉</p> <p>「基礎から臨床への架け橋」</p> <p>座長 家入 一郎 (九州大学病院 薬剤部)</p> <p>上村 尚人 (大分大学医学部 臨床薬理学講座)</p> <p>①「リキッドバイオプシーを用いたエピジェネティクス解析の薬物動態個人差予測への応用」</p> <p>廣田 豪 (九州大学病院 薬剤部)</p> <p>②「Anticoagulation in 5-FU chemotherapy: Drug-drug interactions and the involvement of Cytochrome P450 regulation」</p> <p>Jose Carlos S. Tayag (琉球大学大学院医学研究科 薬物治療学講座)</p> <p>③「デジタル技術を活用した Virtual Clinical Trials の現状と実例」</p> <p>長沼 晴樹 (メビックス株式会社)</p> <p>④「特定臨床研究を支援してみても共同研究施設の CRC・治験・臨床研究事務局の立場から」</p> <p>後藤 千佳子 (鹿児島市立病院 臨床研究支援センター 治験・臨床研究管理室)</p> <p>⑤「独自開発の増殖制御型アデノウイルス Surv.m-CRA-1を用いた First-In-Human 医師主導治験」</p> <p>永野 聡 (鹿児島大学医学部保健学科 理学療法学専攻 臨床理学療法学, 鹿児島大学病院 探索的医療開発センター)</p>
<p>〈ランチョンセミナー 1〉</p> <p>座長 鎌倉 千恵美 (アガサ株式会社)</p> <p>・「医療機関の電磁化と臨床開発業務のリモート化普及に向けて～治験・臨床研究文書管理クラウドサービス「Agatha (アガサ)」で始める新しい日常～」</p> <p>演者 鎌倉 千恵美 (アガサ株式会社)</p> <p>・「臨床試験専門職による臨床試験における必須文書管理のためのクラウドシステム導入」</p> <p>演者 仲島 しのぶ (福岡市立こども病院)</p>	<p>〈特別講演〉</p> <p>座長 武田 泰生 (鹿児島大学病院 薬剤部)</p> <p>「iPS 細胞技術を用いた精神・神経疾患の研究」</p> <p>演者 岡野 栄之 (慶應義塾大学医学部 生理学教室)</p>
	<p>〈次期会長挨拶〉</p> <p>西 昭徳 (久留米大学医学部 薬理学講座)</p>
	<p>〈閉会挨拶〉</p> <p>会長 武田 泰生 (鹿児島大学病院 薬剤部)</p>

3. シンポジウム

シンポジウムでは、テーマを「基礎から臨床への架け橋」として、5名の先生方にご講演いただきました。廣田 豪 (九州大学病院 薬剤部) 先生に、「リキッドバイオプシーを用いたエピジェネティクス解析の薬物動態個人差予測への応用」について、Jose Carlos S. Tayag (琉球大学大学院医学研究科 薬物治療学講座) 先生に、「Anticoagulation in 5-FU chemotherapy: Drug-drug interactions and the involvement of Cytochrome P450 regulation」について、長沼晴樹 (メビックス株式会社) 先生に、「デジタル技術を活用した Virtual Clinical Trials の現状と実例」について、後藤千佳子 (鹿児島市立病院 臨床研究支援センター 治験・臨床研究管理室) 先生に、「特定臨床研究を支援してみても共同研究施設の CRC・

治験・臨床研究事務局の立場から」について、永野 聡 (鹿児島大学医学部保健学科 理学療法学専攻 臨床理学療法学, 鹿児島大学病院 探索的医療開発センター) 先生に、「独自開発の増殖制御型アデノウイルス Surv.m-CRA-1を用いた First-In-Human 医師主導治験」についてご講演いただき、基礎研究から、デジタル研究、特定臨床研究、医師主導治験の話まで、様々な領域の最新のトピックを皆で議論し、最新の知見を吸収し、今後の研究活動や治験業務に役立てることができると思います。

4. ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1 では、鎌倉千恵美 (アガサ株式会社) 先生に、「医療機関の電磁化と臨床開発業務のリモート



Photo. 2 岡野栄之先生による特別講演



Photo. 3 会場内風景

化普及に向けて～治験・臨床研究文書管理クラウドサービス「Agatha (アガサ)」で始める新しい日常～」について、仲島しのぶ(福岡市立こども病院)先生に、「臨床試験専門職による臨床試験における必須文書管理のためのクラウドシステム導入」について、クラウドの具体的な活用方法を交えご講演いただきました。ランチョンセミナー2では、出口尚寿(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 糖尿病・内分泌内科学)先生に、「避けて通れぬ糖尿病合併症～糖尿病性神経障害の病態・病期と治療戦略」について、最新の知見を交えご講演いただきました。

5. 一般演題

一般演題では、田頭秀章(福岡大学医学部 薬理学)先生に、「血管平滑筋 NCX1 阻害処置は低酸素誘発肺高血圧を改善する」について、松金良祐(九州大学病院 薬剤部)先生に、「非小細胞肺癌患者の肝予備能に着目した免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測」について、寺蘭英之(鹿児島大学病院 薬剤部)先生に、「TDM を目指した分子標的薬アフアチニブの副作用回避濃度の解析」について、関口 愛(大分大学医学部 臨床薬理学講座, 大分大学医学部附属病院 臨床薬理センター)先生に、「医療コミュニケーションを重視した問題解決型臨床実習：臨床薬理学教育(クリニカル・クラークシップ)における新たな取り組み」について、益田将吾(鹿児島大学病院 臨床研究管理センター 治験管理部門, 鹿児島大学病院 薬剤部)先生に、「クラウドシステム導入による治験事務局業務の変化」について、高木雅恵(九州大学病院 ARO 次世代医療センター, 九州大学病院 薬剤部)先生に、「治験薬調剤における治験実施計画書からの逸脱防止に向けた取り組み」についてご発表いただき、基礎的な研究から、治験や臨床試験におけ

る業務に関する取り組みについて多岐にわたる内容で、会場だけでなく Web から白熱した質疑が行われ、盛り上がりを見せました。

なお、優秀発表賞には、厳正なる審査のうえ、松金良祐(九州大学病院 薬剤部)先生と関口 愛(大分大学医学部 臨床薬理学講座, 大分大学医学部附属病院 臨床薬理センター)先生の2名が受賞されました。ご発表いただいた先生方の今後の研究活動が期待されます。

6. 終わりに

本地方会は、日本臨床薬理学会九州・沖縄地区の治験・臨床研究の活性化を目的としており、2015年大分県で第1回が開催され、その後、沖縄、長崎、宮崎に続いて、今回第5回目を鹿児島で開催しました。本会は、基礎研究から創薬ならびに臨床応用に邁進する九州・沖縄地区の研究者、医療者が集い、Face to Faceでダイナミックな議論をする場となり、最新のエビデンスを全国へ発信することを期待しています。

次回、2022年の第6回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会の開催は、久留米大学医学部 薬理学講座の西 昭徳先生を地方会会長として、2022年7月30日に開催される予定です。九州・沖縄地方会が今後も発展することを祈念しております。

最後になりますが、本地方会開催にあたり、素晴らしいご講演、ご発表をいただきました演者の先生方、座長の先生方、共催いただきました各企業の皆様、城山ホテル鹿児島のスタッフの皆様、Web配信を行っていただいたCSS株式会社の皆様、そして、本地方会運営を担った鹿児島大学病院薬剤部/臨床研究管理センター 治験管理部門スタッフの皆様から感謝申し上げます。